

仕事と子育ての関係

2004年12月9日～14日、イー・ウーマンにリーダー登録をしている女性たちを対象に調査を行った。有効回答人数1,067名。

■ 子どもは、仕事にプラスの影響!

非常に興味深い調査結果が出た。「仕事と子育て」は難しいものとして話題に上ることが多いが、「子どもを持つことが、あなたの仕事に影響を与えますか?」とたずねたら、既に子どもを持っている働く女性は、「プラスの影響」と答えた人がマイナスと答えた人に比べ51.6%と大きく上回った。しかし、今子どもを持っていない女性たちは、不安でいっぱい。数値は全く逆転して「マイナスの影響」と答えた人が57.8%。… **グラフ1**

また、本人の意識ではなく、実際に職場で周りの人たちからどのような評価を得ているのか、となると、子どもがある人は、「プラスの影響」「影響なし」の人が54.4%と半数を上回っているが、45.5%が何らかのマイナス評価を感じている。しかしこの質問も、現在は子どもがいないという働く女性たちに聞いてみると、大きく逆転する。なんと61.7%がきっと職場では「マイナス評価だろう」と考えているのだ。「案ずるより産むが易し」ということか。… **グラフ2**

■ 保育所が欲しい! 仕事を続けたい!

「一定の期間にしっかり休みを取り、子育てに専念し、その後仕事に復帰する」。これが働く女性たちの理想のようだ。自分が子どもを産んだ後は1年～3年間は育児に専念したい。「もし、その後の職が保障されているならば」。子どもを産むことで女性の体も変化する。母乳で育てたいと考えたり、子どものそばで成長を見守りたいと考える女性も多いようだ。… **グラフ3**

規制改革が進み、民間の保育園もどんどん増えている。しかし、現在子どもがいる、いないにかかわらず、一番望むものは保育園。そして子育て後の就職支援。「子どもが小さいんですね、仕事できますか?」などと面接で言う企業が多い現実が、女性たちの少子化を作っている一つの原因かもしれない。… **グラフ4**

■ 年収が低くても、こんな男性と結婚したい!

結婚しない女性が増えた? 実際今回の1,067名の調査では女性たちの78.6%が「結婚したい」と回答している。… **グラフ5**
たしかに、いつまでか、という結婚年齢に対する精神的な期限は以前に比べて長くなっている。しかしその相手は? もう、ずいぶん変化してきたのでは、と感じつつあるこのテーマについて聞いてみると、何と80%を超える女性たちが「年収は500万でいいので、家事や育児に協力的な男性が良い」を選択。女性たちも動いている。男の魅力は、「収入より、協力」。… **グラフ6**

■ 働く女性たちは、2～3人、子どもを産みたいと思っている!

「働く女性のほうが、専業主婦より出生率が高い。少子化を食い止めるには、女性が働ける社会を作ること」。世界各地の調査でも、日本国内でも、働く女性のほうが子どもを産んでいるという報告がされているが、今回のイー・ウーマン調査では、さらにその傾向が強く見られた。今、子どもがいない働く女性は、「今後1～2人産みたい」と答えているが、既に子どものいる働くママたちは「子どもは2～3人産みたい」と答えている。… **グラフ7** 実際に産んでみると、「もっと欲しい」「これなら、大丈夫」と、ワーキングマザーも悪くないことを実感するのだろうか。働く女性が、まず、1人目の子どもを産めるようにすると、その後2人目、3人目と続いていくのかもしれない。

■ 私たちは、こう考える。

どうして少子化・晩婚化になっているのか? どうしたらよいのか?

1,067名全員のコメントから、以下にまとめてみた。

晩婚化の理由は、いろいろあって、そもそも「結婚=幸せの方程式が崩れた」し、「テレビドラマや小説など、ベストセラーになるものはたいていドロドロな不倫関係など」で、「浮気という言葉がこんなに普及していることにまず疑問を抱く」。また、「経済的に女性が自立」し、「夫の付属品扱われるのがイヤ」だと考えると、「家庭を持つことが今の世の中では人生のリスクとして捉えられているからではないか」。

少子化についても「子どもを産んでもなんらいいことがあるとは思わせない」ような「マスメディアの影響」。それに「娯楽で20代を過ごす人が増えているし、テレビでも「セレブ」が登場し、雑誌もOL中心。「子どもを産むことによるリスク(退職など)ばかりが強調されている」し、「子どもを産んで幸せな世の中だと感じられない」。それに毎日テレビや新聞など「マスコミ報道などで子育てが怖くなる情報が話題を呼び、子育ての楽しさが伝わりにくい」という指摘も。

そもそも、「女性の社会進出の速度と行政の取り組みが合っていない」し、「男性中心の企業と女性の考えのギャップ」もまだまだ大きい。少子化は、「出産や子育てを個人の勝手、余計なもの扱いする企業や社会の姿勢が招いた」のでは。

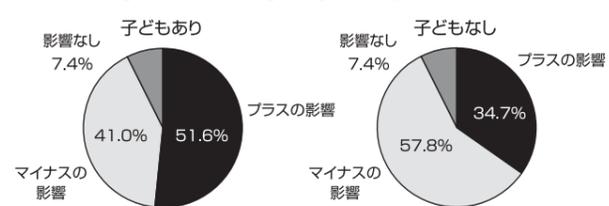
「子どもを持つこと、家族のよさを、上の世代が下に示せてこなかった」こともあるだろうし、「人生を楽しむ選択肢が増えた」上、「男性の子どもへの関心の低さ」もある。「社会全体が、仕事・お金・遊びを基準」にしている、「子育てや将来を担う子どもの教育・しつけ親に対して感覚が疎くなっている」し、第一、「子どもをある程度責任を持って育てるにはお金がかかる」。「地域コミュニケーションの断絶」があるし、「ベビーシッターの不足とそれに伴う経済的負担」も大きい。

そして何より、「夫の無理理解と夫の両親の考え方が封建的」であること。「女性が人間的に成長した」し、「経済的に自立している女性は増えた」が、「日常生活で女性に依存している男性は減らない」し、男性が「幼稚だから」と厳しい意見もある。

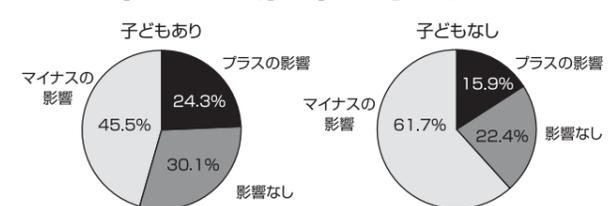
少子化を「なぜ食い止める必要があるのかわからない」という声もあるが、本音は、「子どものいる暮らしの良いところをもっと知る機会があるといい」「働く母親の幸せな姿をもっと多く見たい」ということ。オランダからは、「現在、子どもは3人以上が当たり前、ワークシェアリング先進国のオランダに住んでいます。ここは、塾通いする子がいないのに、英語能力が高く英語圏の国を除くTOEFLのランキングも世界1。賃金レベルは高くないけれども、ゆとりある生活で、世界的な競争力も持つ国です。ここに何かヒントがあるのでは?」

イー・ウーマン調査「仕事と子育ての関係」 http://www.ewoman.co.jp/

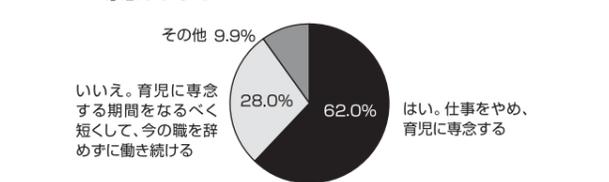
グラフ1 子どもをもつことが、あなたの仕事に影響を与えましたか? お子さんがいない方は、与えると思いますか?



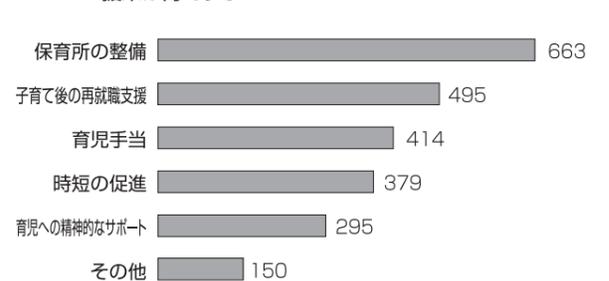
グラフ2 仕事をしながら、子どもをもつことが、職場でのあなたの評価に影響を与えましたか? お子さんがいない方は、与えると思いますか?



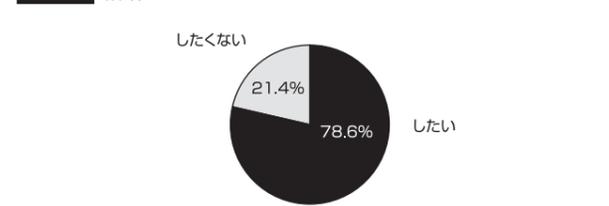
グラフ3 子育て後に再就職の機会が十分にある世の中だとしたら、出産時に仕事をやめて、一定の期間(1年～3年)育児に専念しますか?



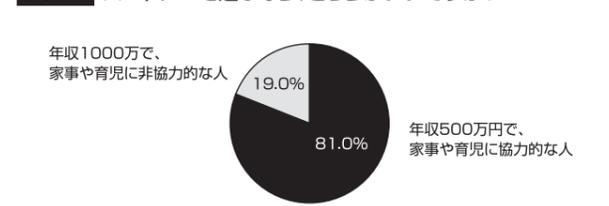
グラフ4 子どもを育てるとしたら、国にもっとも期待する子育て支援策は何ですか?



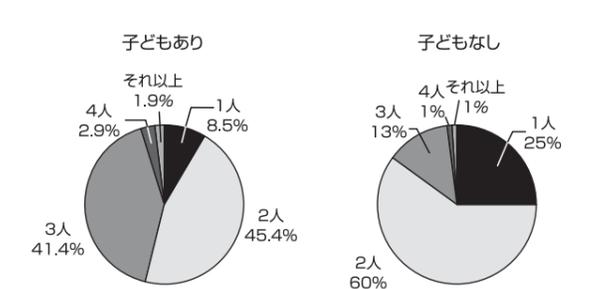
グラフ5 結婚したいですか?



グラフ6 パートナーを選ぶなら、どちらがいいですか?



グラフ7 子どもを生むなら、何人くらい生みたいですか?



<調査概要>

調査実施:2004年12月9日～12月14日
調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
対象:イー・ウーマン リーダーズ
有効回答者数:1,067名

LEADERS DATA

